LA TOKYOKAI 26TH YEAR ANNIVERSARY

2024年 LA TOKYO会 創立26周年記念

新年親睦会並びに
Ark Sano JAZZ Concert

LA Tokyo会では、来る3月3日(日曜日)に新年親睦会を兼ねたアーク・佐野さんによるジャズ・コンサートをLittle TokyoのUnion Churchにて開催致します。
多数のLA東京会の皆様のご来場をお待ち申し上げます。
当日はお弁当と飲み物をご用意致しますので、2月27日(火曜日)までにご出席の有無、またはお申し込みをお願い致します。

場　所

Union Church
401 E. 3rd St., Los Angeles, CA 90013-1601
(San Pedro St. & 3rd St. corner)
※Union Church のパーキングは限られております。日曜日ですので、ストリートでの駐車が可能です。
Aiso Parking(1st & San Pedro)、2nd Streetにも有料駐車場があります。

日　時

Sunday, March 3rd, 2024
2:30pm **開場**(OPEN)　3:00pm **開始**(START)
6:00pm **終了**(End)

費　用

$40/一人(person)
東京会会員でなくても誰でも参加できます。
費用にはお弁当と飲み物、コンサート入場料が含まれます。

お申込み

お申込みはemail(iyamazaki5@gmail.com)にてお願いします。
お支払いは 会場にて現金でお支払いいただくか、または下記の住所までチェックをご郵送ください。
Check Payable to **Mayumi Sakai**　(会計担当)
Mail to : LA TOKYOKAI OFFICE　c/o Parachute Graphics Inc.
16011 S. Dalton Ave, Gardena, CA 90247

お問合せ

Jeff Yamazaki　Cell: 310-291-1177
E-mail: iyamazaki5@gmail.com

JAZZ Concert by Ark Sano

BLACK/NOTEのメンバーとして強烈なイメージとともにデビューを果たして以来、ロスアンゼルスを中心に活動しているアーク佐野氏はもっとも優れたジャズピアニストの一人という評価をジャズシーンで維持している。「JUNGLE　MUSIC」(コロンビアレコード)を含む4枚のBLACK/NOTEのアルバムのほか、幾多のCDに参加しており、最新リリースである彼のピアノトリオ・リーダーアルバム第二弾「IN STORM, IN BREEZE」は各地で好評を博している。アメリカ全土で幅広くライブ活動を行うかたわら、テレビ・ラジオ等のメディアでも演奏し、ノース・シージャズフェスティバル、JVCジャズフェスティバル、モントリオールジャズフェスティバル, モンタレ―ジャズフェスティバル, ヴィットリアジャズフェスティバルを始めとして、実に多くのフェスティバルにも出演している。

URB誌は、「ピアニストアーク佐野のプレイのエネルギーとスピードは圧倒的である...数学的正確さと先例を見ないジャズハーモニーの能力でソロを力奏する」と語り、L.A. JAZZ SCENE誌は「コントロールと熱情をあわせ持つ、技術的にも熟達した驚くべきミュージシャン」と評した。OTTAWA　CITIZEN紙も「モーダルなアップテンポにおいて、目もくらむようなテクニックと優れた流動性を示す」と書き、レナード・フェザー氏は、LOS ANGELES　TIMES紙にて、「急速なシングルノートラインから巧妙な和声の使い方まで多様なアイデアを見せる」と絶賛した。SACRAMENT　BEE紙は「バラードにおいて素晴らしく優しい和声でコード進行を操る」、L.A.　READER紙は「特に目を見張るべき」、L.A. WEEKLY紙は「マッコイ・タイナー風コードや広がる波紋の様なサウンドで繊細な和音構造を語る」と評した。

幼い頃からオルガンを弾くことを遊びの一つとして音楽に慣れ親しんできた彼に才能を見て取った両親は、彼が12才のときに電子オルガンを買い与えた。2年もしないうちにレコードから聴いた曲を自分なりにアレンジして演奏するまでに上達し、友達とフォークやロックのバンドを組んで演奏活動を始めるが、16才の時、ベートーヴェンやモーツァルト、ショパンなどのクラシック音楽に魅了されピアノに転向。高校を卒業後レストランなどで演奏し始めると間もなく地元のジャズミュージシャンに見出され、プロとして活動しながらジャズのとりこになってゆく。その後自己のコンボバンドを率いて岐阜及び名古屋のジャズクラブに出演し始め、若手の新鋭ジャズピアニストとして注目を集めるが、より高いレベルを目指し渡米を決意、バークリー音楽院に留学する。奨学金を得た彼は、アンサンブルチームやプロジェクトバンドで活躍するかたわら自己のバンドをはじめとする多数のグループでリサイタルを行う。又、1989年セロニアス・モンク国際ジャズピアノコンクールに出場しファイナリストに名を連ねる。翌年バークリーのジャズ作曲科を首席で卒業し、ロスアンゼルスに居を移す。その後レストランやバーなどで演奏するかたわらジャムセッションに参加している時、"BLACK/NOTE"のメンバーと知り合い、レギュラーメンバーとなる。現在彼は自己のジャズトリオやソロピアノの活動に情熱を注ぐ一方で、ロスアンゼルスで活動する日米室内楽団の指揮を担当、同楽団やピアノ、弦楽四重奏のために作曲をし、またリサイタルを行うなどジャズ以外の分野でも様々なプロジェクトに意欲的に取り組んでいる。